

ガイドライン（案）への意見及び対応 : 港湾工事における大規模仮設工等に関する技術検討委員会（第4回） 1/3

No	該当箇所・頁	意見	対応
1	p. 1 1.3 用語の定義	P1 第1章 1.3 用語の定義について、特殊施工として、複雑な施工手順と大規模な仮設工事の2つが例示されているが、施工手順が普通と異なるものや、通常よりも厳しい施工管理を要求するものといったニュアンスを入れた方が良い。	1.3 用語の定義に「また、通常の施工手順と異なる施工や、通常よりも厳しい施工管理基準を要求する施工。」を追記する。
2	p. 4 2.1 港湾施設の整備の安全性向上にあたっての基本原則	P. 4 第2章 2.1 港湾施設の整備の安全性向上にあたっての基本原則について、「施工の安全性は、事業者・設計者そして施工者が～」の意味が分かりにくい。表現を工夫してもらいたい。	「施工の安全性は、施工者のみならず設計者や発注者においても各々が～」に修正した。
3	p. 4 2.2 設計の基本原則	P. 4 第2章 2.2 設計の基本原則において、「施工時の安全性・施工性・経済性が担保されるように努める」ことは、当然だが、この3つは並列ではなく例えば「施工性、経済性を考慮しつつ施工時の安全性が担保されるよう努める」などの表現ではどうか。	「施工過程を十分に考慮し、施工性、経済性を考慮しつつ施工時の安全性が担保されることを確認する。」と追記した。
4	p. 4 2.2 設計の基本原則	調査自体を密にやることで、安全性の向上に繋がる。調査についても記載して頂くと調査の質も変わってくると思われる。	2.2 設計の基本原則に「～必要がある。事前調査は、設計・施工にあたっての基本情報となるので、その密度・内容等に十分配慮する必要がある。」と追記した。
5	p. 6 3.1 標準的な施工手順の設定	P. 6 第3章 3.1 標準的な施工手順の設定について、「標準的な」との表現があるが、何が標準なのか分かりにくいので、定義があると分かり易い。	第1章 1.3 の用語の定義に標準的な施工手順を追記した。「設計段階において設定した基本方針としての施工の手順。」
6	p. 6 3.2 施工上の制約への配慮	P. 6 第3章 3.2 施工上の制約への配慮について、近接工事との折り合いやスケジュールのようなものを記載してはどうか。また、異常降雨（大雨）の時にどうするかを記載してはどうか。	・説明文に「～、気象・海象条件（風雪・降雨・日照・波浪・潮汐等）からの制約や、～」と「近接工事との調整～」を追記した。
7	p. 6 3.3 設計上配慮すべき施工過程の抽出と安全性の検討	P. 22 第7章 7.1.2 ケーソン据付時のケーソン動態システムの活用において、動態と言う言葉が出てくるが、施工中の一つの特徴は、動的であり、静的でない。外力に対して動的な対応をしている中で不安定になって転倒することがあるので、「動態」とか「動的」という言葉をどこかに入れた方が良い。	・3.3 の説明文「機材の動揺、施工手順や施工誤差により生じる外力のつり合いの変化等の擾乱に対しても構造物の動態が不安定となるような状況が無いことを確認しておく必要がある。」と、「の動態」を追記した。

ガイドライン（案）への意見及び対応 : 港湾工事における大規模仮設工等に関する技術検討委員会（第4回） 2/3

No	該当箇所・頁	意見	対応
8	p. 7 3.4 リスクの評価とその対応	P. 7 第3章3.4 リスクの評価とその対応について、近接で大規模工事をしている場合、その影響を受ける場合があるのでその当たりを記載してもらいたい。	3.4に「近接工事の影響を受ける・・・」と記載した。
9	p. 7 3.5 施工段階への送り	P. 7 第3章3.5 施工段階への送りの枠内について、「明記する」ということだけで一方通行なイメージがある。伝達するとか情報共有するとか、明確に書いた方が良い。	・枠内に「施工者へ・・・伝達する」と記載した。 ・説明文に「設計のために実施した調査結果」を追加した。
10	p. 12 5.1 施工過程の検証	P. 12 第5章5.1「～施工上の問題の有無の確認、リスクを抽出し、解決策について検討する。」の箇所は、表現が足りないのではないかと。	「想定される現場条件、施工方法等より各施工過程において施工上の問題の有無を確認後、そのリスクを抽出し、解決策について検討する。」に修正した。
11	p. 12 5.1 施工過程の検証	P. 12 第5章5.1「受注者の技術力に応じて～」の記述は、当然請け負った者が技術力を持って受注しているとのことだが、その判断を誰がやるのかということがある。受注者という表現を工夫してもらえないか。	「受注者の技術力に応じて～」は削除し、「より良い施工法～」に修正した。
12	p. 12 5.2 試験施工の実施	P. 12 第5章5.2については、前もって設計の段階で反映して置くべきではないか？	「また、試験施工で得られた知見に基づき、必要であれば設計を見直す必要がある」と追記した。
13	p. 12 5.2 試験施工の実施	P. 12 第5章5.2 試験施工も含め、安全のためにこんなことをした方が良いと言う表現がいくつか出てくるが、誰の責任で誰の費用負担でやるのが最終的に必要となる。この点を整理してもらいたい。	工種や施工法によって設計者、施工者それぞれが検討すべき安全対策は様々であり、個別具体的な条件等に応じて整理されるものであるため、一般的な記載は困難である。
14	p. 15 6.1.1 台船による構造物等の運搬時の安全性	P. 15 第6章6.1.1 下から解説文12行目の「重量増加が再検討されなかったことが原因」の表現を施工者の立場を尊重して、再検討の不十分、足りなかった等の表現に工夫してもらいたい。	「～付属物の重量増加に対する検討が不十分であったことも原因」と修正した。
15	p. 20 6.3.4 近接施工に配慮した施工の安全性の確保	P. 20 第6章6.3.4 近接施工に配慮した施工の安全性の確保について、騒音・振動に配慮する近接施工として住宅や病院等としているが、過去の例では、病院や住宅だけでなく、騒音や振動を嫌うものがあると、いろいろとトラブルが起こるので、例示の仕方を工夫してもらいたい。	説明文に「住宅や病院等が立地する、公共施設、精密機械工場等、騒音・振動等の影響を強く受ける場所に近接して施工する場合・・・」と追記・修正した。

ガイドライン（案）への意見及び対応 : 港湾工事における大規模仮設工等に関する技術検討委員会（第4回） 3/3

No	該当箇所・頁	意見	対応
16	p. 20 6.3.4 近接施工に配慮した施工の安全性の確保	P. 20 第6章 6.3.4 機雷探査は、基本的には無いことを確認してから発注している。記述に工夫が必要ではないか。	・解説文の事例3「杭打設において、機雷残存区間があるとともに障害物が予想される施工であったが、事前に機雷把握のための磁気探査の実施」→「杭打設において、障害物が予想される施工であったが、事前に障害物把握のための磁気探査を実施」に修正した。
17	p. 20 6.3.5 施工途中のトラブル対応	P. 20 第6章杭の支持力不足も大きな問題である。杭の支持力が不足した場合、施工をし直した例があるので、杭の支持力不足に関する記述を追記してもらいたい。	6.3.5 施工途中のトラブル対応の項の説明文後段に追記した。 「杭基礎の打設では、・・・参考にできる」と修正・追記し、参考文献を明記した。
18	p. 22 施工・施工管理における情報化技術の活用事例	P. 22 第7章タイトルは活用例となっているが、中身を活用してもらいたいということか。	・「～事例からのものであり、参考とされたい。」を追記した。 ・分かりにくいので「第7章 施工・施工管理における情報化技術の活用事例」と例を事例として修正した。 ・また、各標題に「～の活用事例」を追記した。
19	p. 22 7.1.1 7.1.2	他のタイトルに活用があるが、この二つには活用がないのはどういうことか。	7.1.1 は「ジャケット据付時の通行船舶監視システム等の活用事例」、7.1.2 は「～動態システムの活用事例」を追記した。

ガイドライン(案)への意見及び対応 : 港湾工事における大規模仮設工等に関する技術検討委員会ワーキンググループの主な意見(平成28年度第1回)

No	該当箇所・頁	意見	対応
1	p.2 1.3 用語の定義	・用語の定義での「標準的な施工」は本文中に出てこないのに、「標準的な施工手順」とし、用語の定義をすべきではないか。	・「標準的な施工手順」の定義を追加した。 ・「標準的な施工」の定義を削除した。(ガイドラインに記述されていない)
2	p.6 3.2 施工上の制約への配慮	・隣接バースの荷役状況に関する記載で、隣接と限定しない方が良い。	・「周辺バースの荷役状況・・・」に修正した。
3	p.12 5.1 施工過程の検証	・検証と試験施工の流れについて、施工過程の検証というのは、先に試験施工を実施して検証し、最終的な施工計画を立てるのが私のイメージであり、順序が逆転しているように思う。 ・ここでの試験施工は、最初の設計に入る前の試験施工なのか、途中でのなんらかの理由による試験施工なのか、試験施工の位置付けを明確にしたほうがよい。	・5.2試験施工 ここでの試験施工は施工段階(施工計画の立案時)のものであることを明らかにするため、「施工計画の検討において、標準的な施工手順に対して・・・」を追記した。
4	p.20 6.3.5 施工途中のトラブル対応	・杭の高止まりと支持力不足のうち、支持力不足への対応は間違えやすいので、その対応等について具体的に書いたほうがミスが無くなると思う。	・6.3.5施工途中のトラブル対応 ・杭の支持力不足に関して、その原因・対応策について記述した。
5	p.12 試験施工の実施 p.20 6.3.5 施工途中のトラブル対応	・杭の試験施工を事前に実施し、支持力関係式を作ることや、施工計画において試験施工の実施後に杭の製作を行う等の関連性を考慮した記載が望ましい。 ・ガイドラインということなので理想を書いてもよいと思う。	・5.2試験施工の実施 ・杭の試験施工として、試験杭の載荷試験、支持力関係式について記述した。 ・6.3.5施工途中のトラブル対応 ・杭の試験施工を実施後に杭発注が望ましいことを記述した。
6	p.12 試験施工の実施 p.20 6.3.5 施工途中のトラブル対応	・杭の試験施工と支持力関係式については、5章の試験施工の実施というところに施工前の試験施工としての記載が分かりやすくなる。	・5.2試験施工の実施 ・杭の試験施工として、試験杭の載荷試験、支持力関係式について記述した。
7	p.25~27 施工技術	・計測・情報化技術の例の記載の並びが適当になっているように見えるので、技術的な区分とした方が分かりやすい。 ・優先順位がないのであれば、あいうえお順か番号順で順番を決めても良い。	・五十音順、アルファベット、数字に並べ替えた。